

本紙ではアカデミック・サポートセンター(ASC)の学生支援体制を紹介し、最近のASCの利用状況などを報告します。この第3号では2011年度の進路相談や学習サポートなどの活動報告と大学院生チューターの体験記事を中心にお届けします。

学部・学科等移行関連行事

昨年9月に引き続き、2月8日に移行ガイダンスと学部・学科等紹介が高等教育推進機構で行われました。今回のガイダンスでは総合入試の学生向けにWebによる志望登録の手続きについて詳しい説明がなされました。また、ほとんどの学部・学科が各自の学問や研究を紹介するプレゼンテーションと相談会を実施し、大勢の学生が熱心に参加していました。なかにはロボットが学科紹介を行うなど、独自の工夫を行う学科もあり、非常に多彩な内容でした。

ASCでも個別相談会を開催し、多数の学生が相談に訪れました。相談では「〇〇が学べる学部はどこか?」「A学部とB学部で迷っている。どちらが良いか?」といった学部・学科選択に関する事が多く寄せられました。このような相談に対しては、人気・不人気で選ぶのではなく、本人が本当にやりたい事をまずみつけ、それに一番近いところを志望するようにアドバイスしました。



学部・学科等移行ガイダンス

本年度のASCでの進路・修学相談の利用者数は現在のところ延べで約400人です。3月には1～5日に第2回志望調査、6～8日に第1次志望登録、9～12日に第3回志望調査、13～15日に第2次志望登録、16～19日に補充振り分けと、移行スケジュールが目白押しで、学生が進路選択に悩むことが多くになると予想されます。みなさまの周りにそのような学生がおりましたらASCの利用を勧めていただくと幸いです。

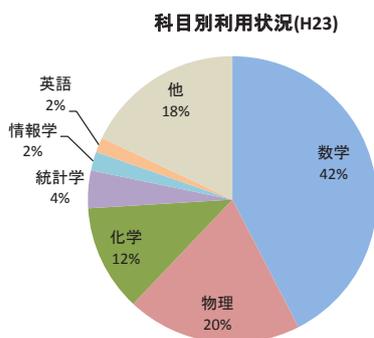
2011年度学習サポート報告

今年度の大学院生チューターによる学習サポートは第1学期は4月18日から8月12日まで、第2学期は10月3日から2月6日まで行いました。この期間以外はスタッフが対応しました。利用者の延べ人数は、第1学期は1162人、第2学期は1052人で合計2218人でした。昨年度に比べると4倍近くの利用者となります。

科目ごとの利用状況と月ごとの利用者数を下のグラフに示しました。科目別では数学が最も多く、次いで物理、化学とな

っています。第1学期には期末試験の時期に利用者が増加したことから、第2学期の期末試験の時期に数学と物理のチューターを2名増員し、開室時間も午前中まで拡大して利用者数増に対応しました。定期試験直前やレポート提出直前に焦ってやってくる学生が多いので、来年度からはもっと早めの利用を学生に呼びかける予定です。

裏面にチューターの体験記を掲載していますのでご覧ください。



チューター体験記

第2学期は12名の大学院生チューターが、講義期間中に学習サポートを実施しました。チューター全員に学習サポートについてレポートを提出してもらいました。チューターのみなさまに感謝いたします。以下にその抜粋を掲載します。

理学院数学専攻M1(数学, 統計担当)

田子谷 敏幸

後進の学生の育成にかかわるという意味で、チューターは大変やりがいがあると感じます。学習サポートでは、学生の勉学を促進させるため、どう説明したら学生にとってわかりやすいか、どうすれば学生がまた来たいと思うかななどを考え対応しました。

今期の学習サポートでは累次積分やベクトル空間など授業中だけでは十分に理解しきれないであろう分野が多くあり、これを授業時間外でじっくりと教えることができることは大きなプラス要素であると感じます。その為これらの解説などは特に注力しました。

ただ、これらの指導のフィードバックが得づらいと感じています。つまり、相談者が指導内容を自分の中に知識として獲得できるような指導だったか、チューターにはわかりにくいということです。フィードバックを実現するのが難しいことは理解していますが、もし指導のスタイルや内容について学生の要望などの情報があればチューターとしても指導法を考えやすくなると思います。

理学院物性物理学専攻M1(物理担当)

筒井 和政

チューターとして感じたことは、学生が質問することや問題のほとんどが、レポート問題や教科書の章末、節末の問題であったということです。そのような問題は少々応用的な傾向が強いように感じました。

私に対応した学生たちによると、講義では、取り扱う系や計算法などに対しては、基本的な定義と教科書の例題を通した説明が重点的に行われることが多いようでした。いざ応用的な問題を解くとすると、手も足も出ない、という学生が一定の割合で存在するようです。そういう意味で、チューターは限られた講義時間ではカバーしきれない範囲の、また学生がつまずきがちな問題の理解を助ける役割を担っているのだと強く感じました。

私が学部生の時代に学習サポートが存在していれば、よりスムーズに講義内容の理解が進んだと思います。特に学習サポート制度は、大学という環境



チューターによる学習サポート

に置かれて間もない1年生にとって有益なアドバイスをもらえる場であると感じました。ですので、より多くの学生にその存在を知ってもらい、利用を促すような試みももっと多くなされると良いと感じました。

文学研究科言語文学専攻D2(英語担当)

松浦 和宏

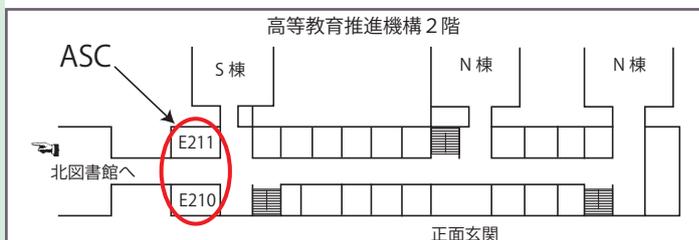
学生が気兼ねなく相談に訪れることができる場所としてのASCの存在意義は大きいと思います。授業で理解出来ない点や学習法だけでなく、授業の履修や交換留学など、学生生活一般に関する悩みや質問にも対応出来る場所として、学習サポートは非常に重要な存在だと思っています。

「英語」に関しての私自身の改善点・反省点として以下の3つがあると認識しています。「1, 具体的に対応出来る内容の宣伝」「2, 交換留学に関するイントロ」「3, 自主的な英語学習にも対応可能である事をアピール」。

1は例えば「英文添削」と言った様に具体的に対応可能な領域を明示したほうが、学生も相談しに来やすくなると思います。

2は意外と需要が高いと思っています。交換留学の説明会には1-2年生が大勢来ています。「英語」コーナーで交換留学の具体的な方法などの説明が聞けるとアピールすれば、潜在的な需要を掘り起こせるとしています。

3は例えば「英語学習にあたって、どんな問題集や雑誌が最適か?」といった質問にも対応出来る事を明示した方が良いと思います。雑誌やサイトの紹介など、包括的に英語学習をサポート出来る点を積極的にアピールすべきだったと反省しています。



アカデミック・サポートセンター

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目
北海道大学 高等教育推進機構 2階
E210(相談) / E211(学習サポート)

T E L 011-706-7526

E-mail asc@high.hokudai.ac.jp

U R L <http://asc.high.hokudai.ac.jp> 2012年2月24日発行

